

# 103-290

## 問題文

努力肺活量(FVC) 2.72L(予測値 : 2.98L)、1秒量(FEV1.0) 1.42L(予測値 : 1.86L)、 $\text{PaO}_2$  75Torr、 $\text{PaCO}_2$  46Torr、血液pH 7.37

1. 可逆性の換気障害が特徴的である。
2.  $50\% \leq \%FEV < 80\%$  であるので、病期はⅡ期中等症である。
3. 処方3の薬剤を使用するにあたって、排尿障害があるか否かを確認する必要がある。
4. 感染の重症化を防ぐため、インフルエンザワクチン及び肺炎球菌ワクチンを年1回、接種するように指導する。
5. 在宅酸素療法の適応となる。

## 解答

問290 : 2, 4問291 : 2, 3

## 解説

### 問290



オルベスコ、セレベント、スピリーバ

選択肢 1 ですが

加圧式定量噴霧吸入器 (pMDI) は、息を吸うタイミングが重要になります。任意のタイミングではなく、息を吸うタイミングと同調して容器をプッシュします。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい記述です。

選択肢 3 ですが

吸入薬は局所作用を期待して用いる製剤です。全身性の副作用のリスクは内服薬と比較すると一般的に小さいといえます。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

実際にやってみないとなかなかコツはつかめないものです。

選択肢 5 ですが

発作時に使ういわゆるリリーバーは、本処方には含まれません。オルベスコ使用は不適切です。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,4 です。

### 問291

選択肢 1 ですが

COPD による閉塞性換気障害は、ゆっくりとかつ非可逆的に進行することが知られています。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2,3 は、正しい記述です。

%FEV<sub>1</sub>は、予測値に対する実測値の割合です。（本問では、1.42/1.86 のこと）< 30% が極めて高度の気流障害です。また、チオトロピウムは抗コリン薬なので 排尿障害の確認を必要とします。

選択肢 4 ですが

インフルエンザワクチン及び 肺炎球菌ワクチンが、感染の重篤化を防ぐため 推奨されるのは、正しい記述です。

ただし、肺炎球菌ワクチンは いったん接種すると 「5 年間」効果が持続します。従って 肺炎球菌ワクチンを 年 1 度 接種するよう指導する、というのが誤りです。※インフルエンザワクチンは 年 1 回接種が推奨されます。

選択肢 5 ですが

本試験時、PaO<sub>2</sub> 75はまだ適応外です。PaO<sub>2</sub> 60 以下から適応があり得ます。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,3 です。